

農村ツーリズム『農たび・北海道』の取組状況

農村ツーリズムの取組とは

- 自然と調和した農村景観や暮らしの中での体験や交流、安全な食を求めるグリーン・ツーリズムに対するニーズが高まり、その内容も多様化する一方で、個々の農林漁業者のみでは高齢化や受入負担などの課題もあり必ずしも十分な対応ができませんでした。

そこで、道では平成29年度より、**地域で活動する多様な分野の事業者が「食・滞在・体験等」を「地域ぐるみ」で受け入れる新たなグリーン・ツーリズムである「農村ツーリズム（農たび・北海道）」**に取り組んでいます。

平成29～令和元年度の主な取組実績

(1) 地域支援体制の整備

- 北海道グリーン・ツーリズム推進庁内連絡会議に農泊推進部会を設置
- 道内の関係機関との連携を強化するため「農村ツーリズム連絡会議」を設置
⇒ 参画機関：北海道経済連合会、北海道観光振興機構、J A中央会、ホクレン、ぎょれん、森林組合連合会、日本政策金融公庫札幌支店、北海道グリーンツーリズムネットワーク、北海道農業公社、北海道農業会議、北海道土地改良事業団体連合会、北海道大学、札幌大谷大学、北海道開発局、北海道運輸局、北海道農政事務所、北海道

(2) 取組への意識の醸成

- 農泊の認知度向上やレベルアップを図る研修会を開催（道庁主催、農水省共催）
⇒ H29：2回開催 H30：1回開催
- 取組地域の掘り起こしや意識醸成を図るセミナー等を開催（振興局主催等）
⇒ H29：15回開催 H30：32回開催 R1：26回開催（5振興局、経済部）
- 行政職員のスキルアップを図る全道研修会を開催（道庁主催）
⇒ H29：1回開催 H30：1回開催 R1：3回（札幌市、旭川市、釧路市）
- 取組地域のネットワーク化を図る研修会を開催（道庁主催）
⇒ H29：2回開催 H30：2回開催 R1：1回開催（札幌市）

(3) 地域の構想づくり支援

- 地域の構想づくりを支援する勉強会を開催（道庁・振興局主催、農水省共催等）
⇒ H29：16回開催 H30：6回開催 R1：43回開催

(4) 情報発信

- 農村ツーリズム ロゴマークによるPR
⇒ 札幌大谷大学とのタイアップ事業により決定
- SNSの活用やPR活動の実施



令和2年度の主な取組実績

(1) 地域支援体制の整備

- 「農村ツーリズム連絡会議」が開催延期となったことから、国の農泊事業や道の取組方針等について関係資料を提供することで情報共有し、関係機関との連携を強化。
- 「農村ツーリズムネットワーク研修会」「教育旅行フォーラム」が開催延期となったが、関係者との意見交換や情報提供の充実に努めた。

(2) 取組への意識の醸成

- 取組地域の掘り起こしや意識の醸成を図るセミナー等を開催（道庁、振興局主催）
⇒ 2回開催（道庁（経済部）） + 5回開催（4振興局）
- 道職員のスキルアップを図る研修会を開催（道庁、振興局主催）
⇒ 道庁主催4回（道庁：余市町、八雲町、美瑛町、帯広市） + 振興局主催1回

(3) 地域の構想づくり支援

- 地域の構想づくり・レベルアップに向けた関係者との意見交換等（道庁主催、農水省共催）
⇒ 21回開催

(4) 情報発信

- SNSの活用やPR活動の実施
⇒ パネル展などを実施

(5) 人材育成支援

- 都会の若者が「農たび」について考える講座を開催（札幌大谷大学連携事業）
⇒ 2回開催（札幌市、長沼町）

<現地講座>

教育旅行受入地域で実践者のお話を聞き、農業施設や大豆畑などを見学（学生19名参加）



札幌大谷大学美術学科の学生が地域の取組をPRするため考案したポスター15点、コンセプトボード11点とその試作品などを公開

(5) 人材育成支援

- 都会の若者が「農たび」について考える講座を開催（札幌大谷大学連携事業）
 - ・ 大学出前講座（札幌市）
⇒ H30：1回実施 R1：1回実施
 - ・ 現地講座（栗山町）
⇒ H30：1回実施 R1：1回実施
 - ・ パネル展での作品展示（道庁ロビー）
⇒ H30：1回実施 R1：1回実施
 - ・ 全道研修会への参加（札幌市、実践者との交流等）
⇒ H30：1回実施 R1：1回実施

PR活動

ポスター・チラシ、ロゴ入りトートバックを作成し農たびをPR。（関係機関へポスター、チラシを配布）

